



『 鏝（こて）のお話 』

いつもお世話になっている元東京大学教授の木原諄二先生からの依頼メールが届いたのは5月中旬でした。『左官屋さん達のグループマガジン』を刊行している人から頼まれたことで、「塗りごて」に使われている鉄あるいは鋼について肩の凝らない説明記事を書いて下さる方を紹介して下さいと言うことです。左官屋さん達にわかるように簡単に行き届いたお話しを書いて下さると有り難いのですが、お引き受け頂けますでしょうか。』

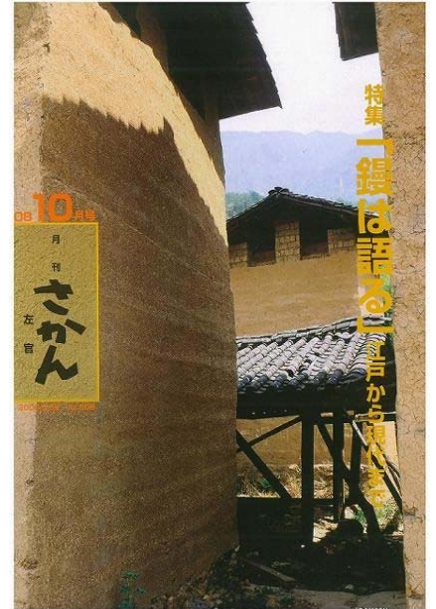
気軽に了承したのですが、さて鉄の話を書く段になって、鏝に使われる材料やその製造工程を全く知らずに文章を書いても左官屋さんたちに理解してもらえません。そこで鏝を古くから作っておられる三木市の梶原鏝製作所へ電話をし、パンフレットを送っていただきました。ついでに、現在使われているコテの材料（材質）とそれらの呼び名（業界用語）を教えてくださいました。地金（じがね）、半焼き（はんやき）、油焼き（あぶらやき）、本焼き（ほんやき）。又、三木市が鏝の大産地で本職用は90%以上を生産している、とのことでした。

一つの道具に、こんなに異なった素地と硬さを持った道具は鏝の他には無いのではないのでしょうか。しかし、それは左官職の方々の作業方法や、作業箇所に対応する経験が作り上げたものなのです。壁づくりの専門家達は荒塗り、中塗り、仕上げ塗りのそれぞれの工程に、土や砂その他の材料の荒さや配合率、加える力の強弱、塗りのスピードの差、それらの要素により鏝の硬軟、たわみの強さなどが生まれてきたのです。

彩色の壁画が有名な高松塚古墳の絵も、下地に白漆喰が塗られその上に描かれたものです。すでに古墳時代から、左官の基本的技術は確立していたに違いありません。

私の書いた文章が月刊『さかん』10月号に掲載されています。（P 42～43）3～4回のシリーズで掲載の予定。興味のある方はご一読ください。

なお、10月号の記事中、木原先生の名前が間違っています。正しくは木原諄二先生です。



鏝（こて）の業界内での呼び名と特性

	読み	炭素量	焼入	硬さ	用途	JIS 規格による
一般的素材	地金 じがね	☆	なし	☆	建築資材	SS400 一般構造用圧延鋼材
	半焼き はんやき	☆☆	なし	☆☆☆	機械部品	S50C 機械構造用炭素鋼材
	油焼き あぶらやき	☆☆☆	○	☆☆☆☆	工具・鋸	SK-5 炭素工具鋼
	本焼き ほんやき	☆☆☆	○	☆☆☆☆☆	工具・鋸	SK-5 炭素工具鋼
特殊な素材	白紙	☆☆☆☆	○	☆☆☆☆☆	刃物・鉋・ノミ	日立金属（株）の社内規格
	青紙	☆☆☆☆	○	☆☆☆☆☆	刃物・鉋・ノミ	
	黄紙	☆☆☆	○	☆☆☆☆☆	刃物・鉋・ノミ	
ステンレス		☆☆	○	☆☆☆☆☆		SUS420J2

鏝の事をお教え頂きました梶原鏝製作所、梶原薫さまにお礼申し上げます。
ありがとうございました。

むらの鍛冶屋®

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/>
ryou@memenet.or.jp



何でもお気軽にお尋ねください！！